

地球と共生、思いつなぎ

第一貨物（本社・山形 三菱自動車販売の役員、市、武藤幸規社長）は七 スタッフら六十四人が参日、山形県山辺町の県民 加した。

の森に隣接する同社「創 創生の森は平成二十二生の森」でブナの若木が 年十一月の誕生から丸五無事に冬を越せるよう、 年を迎え、当初は膝丈は下刈り作業を行った。武 丈に成長。地元森林組合・ティー・ホールデイ の協力の下、三千本ほどングス（IIDDH）のブナが育っている。人ループの太平興業、山形 間でいう成人の状態に至



森が元気に育つよう願いを込めオオヤマザクラを植樹（中央に武藤社長、左に新関常務、右に及川太平興業取締役）

るには約五十年の歳月が 必要といい、植林事業に は環境活動にとまらな い、企業の永続生、次世 代への継承の意味も込め

武藤社長は集まった役 員、スタッフを前に「第

一貨物はトラックを走ら 役の三人でオオヤマザク せ太平興業は車を売る。 ラの記念植樹を行った どちらも地球環境との関 後、全員で雑草・雑木の 係が深い事業。グローバ 下刈りを実施。まだ小さ ル人口の急増、やがて訪 若木には肥料を与え、 しでも環境 て木製チップを敷設し 保全に役立 た。遊歩道は環境学習の てればと、 授業などで地元の子ども 創生の森プ たちも時々利用するとい ロジエクト う。

「創生の森」5周年

第一貨物

グループで環境保全の意識を育んでいく



を五年前に 曇りの空でも、汗をかき 企画した」 上着を脱いで作業するス と活動の目 タップの姿が多く見られ 的をあらた た。作業は午前中で終わ めて説明。 り、昼食には天然きのこ 社会や環境 をふんだんに使ったきの の共生を こ汗とおにぎりが振る舞 重視してい われた。最後に第一貨物 ることを強 の吉田郁雄総務部長が 調した。 「ブナの成長を見届ける 武藤社 ために、次の世代へ、ま 長、新関重 た次の世代へとバトン を 喜常務、太 つないでいく」と話し、 平興業の及 締めくくった。

川明徳取締役 (矢田 健一郎)